

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案（国際教育）

日時：令和7年1月30日（木）第5校時

学級：第4学年1組・A組 26名

少人数授業 13名

場所：4年1組教室

指導者：松橋 隼人

1 単元名 東っ子 SDGs 大作戦 ～ 世界に目を向けて ～

2 単元の目標

SDGs について調べる活動を通して、世界でどのようなことが起きているのかについて知り、地球的視野に立って自分たちにできることは何かを考えるための素地を養い、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

<国際教育の目標>

- 相手に分かりやすく伝える方法を理解し、活用する力を身に付ける。
- 多様な考えや文化の違いに気付き、自分の考えをまとめたり、解決法を考えたりすることができる。
- 相手に伝わりやすい方法を工夫して表現できる。
- 自分と違う意見や考えを生かしながら、協働して課題の解決に取り組もうとする態度を養う。

3 単元の学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
総合的な学習の時間	目的や対象に応じて、校外における調査活動を実施している。	世界の問題やその解決に必要な情報を多様に収集し、整理している。	SDGs との関わりの中で、自分にできることを見つけようとしている。
国際教育視点の評価規準	① 分かりやすく伝えるためには、写真や文字の大きさなど、視覚的な工夫が必要なことを理解し、取り入れている。 ② 他学年の助言を基に、より分かりやすい発表の工夫を取り入れている。	① SDGs について、これまでの自分たちの取組と結び付けて発信する目的を考えている。 ② SDGs について、これまでの自分たちの取組と結び付けて世界の取組を考えている。 ③ 身近な問題と世界の問題のつながりや解決策を考えている。 ④ 世界の問題やその解決策を分かりやすく伝えるための発表資料を工夫している。 ⑤ 世界の問題やその解決策について、分かりやすく発表している。	① SDGs について、興味をもち、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ② 世界の問題について自分の考えを基に、協働して課題の解決に取り組もうとしている。 ③ SDGs に向けた生活や行動をしようとしている。

4 単元について

中学年では、「日本各地や外国の文化・伝統に興味をもつとともに、それらを比較して違いに気付く児童」「他者との関わりを通して、自分の考えや気持ちを積極的に表現することができる児童」を目指している。そこで、社会科の学習を通して自分にできることを児童に考えさせ、そこから総合的な学習の時間でSDGsに発展させた。SDGsの学習を通して地球的視野に立ち、いま世界で起こっている諸問題に目を向けさせることを目的に単元を構想した。

これまでに、世界の現状やSDGsの目標について知る活動から自分事に置き換えて、身近な問題について個人やグループごとに考えさせる活動に取り組んできた。

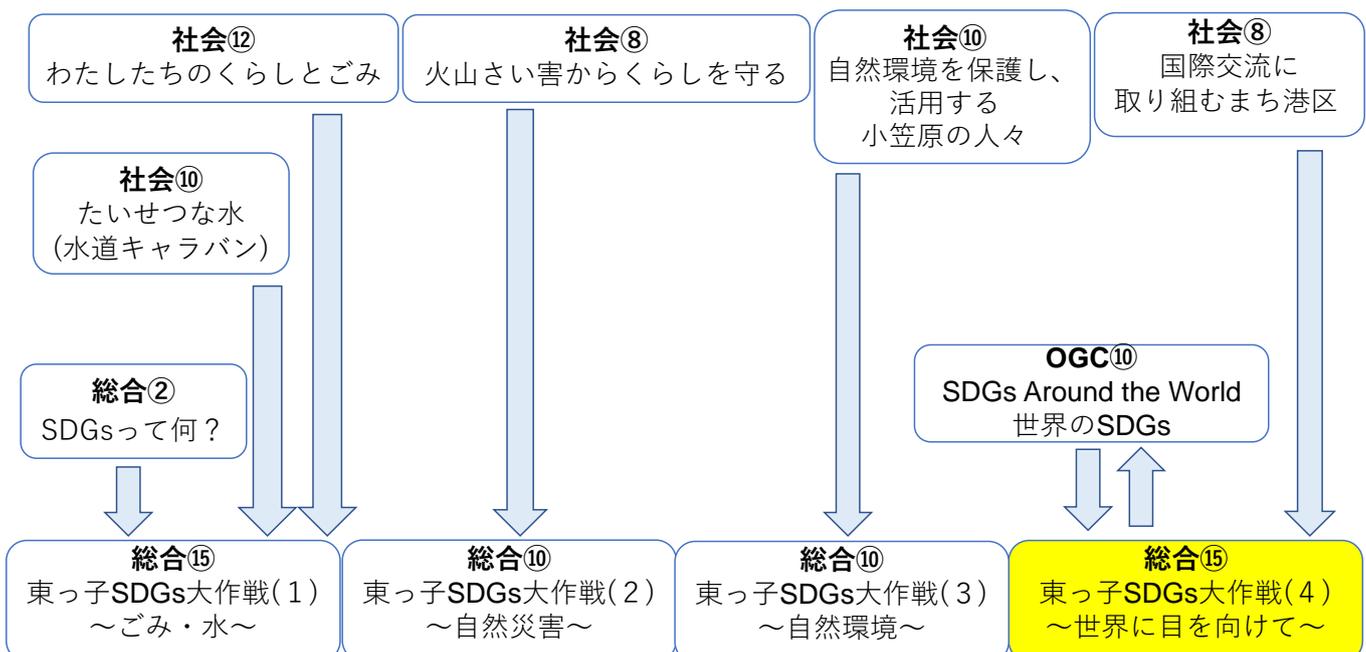
また、本やインターネットを使って、ごみや水、自然災害、自然環境についての現状や問題を調べ、今後の自分の生活や行動についての改善策をスライドにまとめ、クイズも取り入れるなどのやり取りを意識した発信を目指して繰り返し活動してきた。

本単元では12月から世界のSDGsの取組にも目を向けさせてきた。日本とは違う方法で地球保護のために取り組んでいることやその歴史を知り、それぞれの地域の特性を生かしたやり方で地球を守っていることに気付かせたい。自分たちのこれまでの取組と世界の取組の共通点に気付かせることで、「自分たちの取組は無駄ではない」と、児童の取組を価値付けていく。

これらの体験を通して、自分たちがおかれている様々な状況を理解し、持続可能な社会を実現するためには自分たち以外にも発信し、考えを広めていかなくてはならないということに気付くことが期待される。そこで、本時の後で自分たちの発表を全校児童に発信する時間を設け、自分たちの地球を守るためにできることを全校に広められるようにした。更に、地域においても日本以外の国籍をもつ方々も多く暮らしている現状がある。そこで、SDGsの観点から地域の問題を解決するために英語表記や図を使うなどして、OGCの学習で身に付けた英語力を生かしたり、外国語教育指導員の母国のSDGsの現状や取組を調査したりして自分たちが考えた諸問題に対する解決策を発信していく。

このような活動を通して、国際教育で育てたい「国際社会において、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の素地」を養っていきたい。

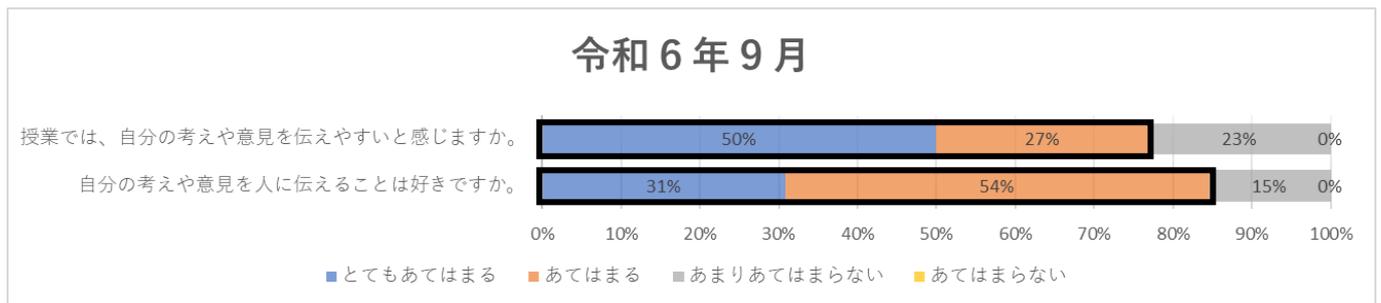
<本単元との関連教科等および単元名> ※教科名の横の数字は、授業時数



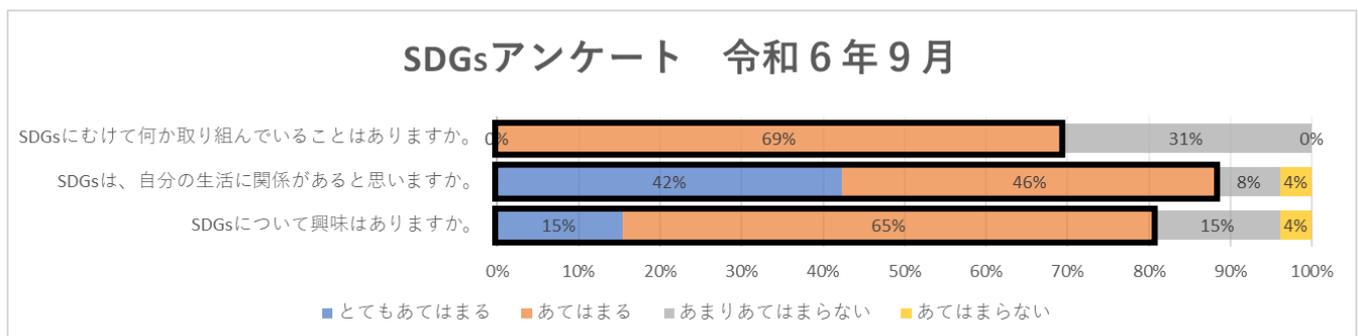
5 児童について

本学級は、日本以外に6か国をルーツにもつ児童がいる。幼少期から多国籍の環境に慣れているためか、児童の関わりに、国による隔たりは感じない。しかし、考え方の違いや文化の違いについて「どうしてだろう？」と感じ、自分との違いに疑問をもつ場面が4年生になって多くなってきている。その問題に対して必然的に国による文化や考え方の違いに触れ、学級の中で協働するための解決策を考え、自分たちで乗り越えてきている。本単元の学習を通して、考え方や文化の違いを認め、受け入れていく力をより高めていきたい。

また、学級の児童を対象に、9月にアンケートを行ったところ、以下のような結果になった。



「授業では、自分の考えや意見を伝えやすいと感じますか。」という質問には、肯定的回答が77%と高い数値で見られた。聞く側が、話す側の考えを少しずつ受け入れることができるようになってきていると考えられる。また、「自分の考えや意見を人に伝えることは好きですか。」という質問にも、肯定的回答が85%と高いことがわかる。自分たちで調べて、まとめたものを発表する機会を増やしたことで、発表に対して慣れ、自信が高まったと考えられる。



SDGs についてのアンケートでは、3つの項目全てで肯定的回答をした児童の割合が高かった。実際にSDGsについて学習し、自分たちで調べたことをまとめたり発表したりしたことで、より興味が高まり、自分事として考えて行動に移したりするようになったと考えられる。

以上のことから、児童の発表に対する自信や意欲、SDGs に対する興味関心は高まっていると考えられる。本単元を通して、より発表に対する自信を付けさせ自己肯定感を高めるとともに、身近な問題に目を向け、解決に向けて自ら取り組んでいけるようなグローバルな人材としての素地を養っていきたい。

6 国際教育の視点における指導と評価の計画

時	ねらい	主な学習活動・内容	知	思	主	評価方法
1	世界の SDGs について振り返り、学習の見直しをもつ。	○世界の SDGs の取組について知る。			①	SDGs について、興味をもち、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 (行動観察・発言・記録)
2	より多くの人に向けて世界の現状と解決策を発信する目的について考える。	○全校児童に向けて世界の現状と、自分たちが考えた解決策を発信する目的について確認する。		①		SDGs について、これまでの自分たちの取組と結び付けて発信する目的を考えている。 (行動観察・発言・記録)
3	諸外国の取組と、これまでの自分たちの取組と比べながら考える。	○これまでの自分たちの取組との共通点について考える。		②		SDGs について、これまでの自分たちの取組と結び付けて世界の取組を考えている。 (行動観察・発言・記録)
4	発表する SDGs の取組について話し合う。	○発表グループを決め、どの目標について発表するのかを決める。			①	SDGs について、興味をもち、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 (行動観察・発言・記録)
5	世界の SDGs の取組について、自分の考えをもつ。	○世界の「現状・解決策」と身近な「現状・解決策」との共通点について考える。		③		身近な問題と世界の問題のつながりや解決策を考えている。 (行動観察・記録)
6 本時	互いの考えを共有し、グループとしての考えをまとめる。	○「現状・解決策」についてグループで話し合い、発表内容を決める。			②	世界の問題について自分の考えを基に、協働して課題の解決に取り組もうとしている。 (行動観察・発言・記録)
7 8	世界の SDGs の取組について、分かりやすく伝えるようにスライドで表現する。	○「現状・解決策・今後の行動・呼びかけ・目標クイズ」の5つの発表スライドを協力して作成する。			④	世界の問題やその解決策を分かりやすく伝えるための発表資料を工夫している。 (行動観察・スライド・記録)
9	世界の問題やその解決策について、より伝わりやすいスライドを作成する。	○発表のリハーサルを行い、グループごとにスライドについての助言をし合い、より伝わりやすくなるように修正する。	①			分かりやすく伝えるためには、写真や文字の大きさなど、視覚的な工夫が必要なことを理解し、取り入れている。 (行動観察・発言・スライド)
10	5年生に発表し、助言をもらうことで改善点を見付ける。	○5年生に向けて発表し、より伝わりやすくなるように助言をもらう。			⑤	世界の問題やその解決策について、分かりやすく発表している。 (行動観察・発言)
11	5年生からの助言を基に、発表内容や形態を見直す。	○5年生からの助言を基に全校児童への発表に向けて修正し、全員で最終確認をする。	②			他学年の助言を基に、より分かりやすい発表の工夫を取り入れている。 (行動観察・発言・スライド)
12 13	自分たちで発表内容を見合い、全校児童へ伝わりやすい表現方法を見付ける	○発表時の役割や台詞を確認し、発表の練習をする。				※国際教育の視点における評価は行わない。
14	全校児童に向けて SDGs に対する考えを分かりやすく発表する。	○世界の SDGs について、自分たちの考えを全校児童に発信する。			⑤	世界の問題やその解決策について、分かりやすく表現している。 (行動観察・スライド)
15	これまでの学習を振り返り、最終的な SDGs に対する自分の考えをまとめる。	○SDGs の学習を振り返り、地球のために自分ができることや他の人に呼びかけたいことをまとめる。			③	SDGs に向けた生活や行動をしようとしている。 (行動観察・発言・記録)

7 本単元における研究主題に迫るための具体的な手だて

(1) 題材としての「SDGs」の取り上げ

グローバルな人材育成のために、世界に目を向けさせる手段として「SDGs」を題材とした。4年生の社会科では、水質汚染やごみ処理、自然災害、自然環境保護等の環境問題などに触れた。これらの学習と連携させながら、世界で起こっていることや、その解決のための目標があることに目を向けさせ、持続可能な視点で自分たちにできることは何かを考えさせた。身近な問題を解決することから始まり、その積み重ねがSDGsにつながることに気付かせ、自分事として具体的な方策を考えることができるようにした。

(2) 調査活動による導入

児童がSDGsをより身近に感じ、主体的に活動に取り組むようにさせるため、単元の導入に社会科見学や外国語教育指導員に母国のSDGsの取組について聞く調査活動を取り入れた。映像や図書資料で見ただけでなく自分の目で現実を確かめることで、今後の学習へのモチベーションにつながると考えた。

(3) 発信力向上の工夫

発信力を高めるために、スライドを活用しクイズを交える等の工夫をしながら発表させた。そうすることで、社会科で学んだことや初めて知ったことを発信したくなるような場になると考えて設定した。また、全校児童に発表する前に他グループの発表に助言したり、グループ内で練習したりすることにより、安心してコミュニケーションが取れるようにした。

(4) 発表シートの活用

①「聞こえる声で」、②「からだの動き」、③「すっきりまとめて」の3つのポイントを児童に意識させるために、それらをまとめた発表シートを活用した。また、聞き手のシートも用意し、静かに聞くだけではなく、どのようなアクションをとりながら聞くことが望ましいのかを示すことで、高学年で身に付けたい英語での対話のやり取りにつながると考えた。

(5) 児童の調査資料の精査

正確な情報を効果的に活用させるために、教師が選んだいくつかのホームページを提示して、その中から自分たちで選ばせるよう設定した。調べる時間には教師から毎時間参考にするホームページを紹介して、その中から知ったことや気付いたことを発表に向けてまとめていくようにした。

8 本時の学習（全 15 時間扱いの第 6 時間目）

（1）本時の目標

全校児童に SDGs について自分たちの考えを伝えるために、世界の問題について自分の考えを基に、協働して課題の解決に取り組む。

（2）本時の展開

過程	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	※研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 5分	全体	1 本時の学習を知る。	○世界の問題に対する現状や問題、解決策について、グループとしての考えをまとめることを伝える。	※SDGs についてのこれまでの学習に触れる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 世界の問題に対する SDGs はこれで決まり！ 世界の問題について、グループとしての考えを話し合っ決めてよう。 </div>					
展開 広げて 深める 30分	グループ	2 自分が考えた身近な問題や解決策と世界の問題や解決策との共通点をグループで共有する。 3 世界の問題や、SDGs の目標達成に近付くことができる解決策について話し合い、グループの考えをまとめる。	○「現状と問題」「解決策」についてグループで話し合わせ、友達の考えとのつながりを考えさせる。 ○発表のテーマに対して自分たちができる取組について話し合わせ、グループワークシートへのまとめ方を伝える。 ☆Y チャートのワークシートを配付し、「現状」「問題」「解決策」の3つの視点でまとめさせる。 ●意見を伝えることが苦手な児童には、「自分が気になっていることは何か。」「今の自分たちにどんなことができるのか。」等と投げかけ、考えの視点を絞らせる。	※自分の考えをまとめたシートを各自手元に用意させ、考えを伝わりやすくさせる。 ※自分の意見や考えと違っていても、その考えが違う解決策につながらないかどうかを考えることを伝える。	世界の問題について自分の考えを基に、協働して課題の解決に取り組もうとしている。 【ウ-②】 (行動観察・発言・記録)
まとめ 10分	グループ	4 グループで話し合った取組がどの目標に当てはまるのか話し合う。 5 話し合っ決めて決まった内容を発表する。	○17 の目標のうち、どの目標に関係あるのか話し合う。 ☆関係あると考えた理由についてグループで共通理解しているか確認させる。 ☆グループで話し合った内容が見えるようにワークシートをスクリーンに映す。		